

# 平成25年度 学校研究

## 1 研究主題

自分の考えを持ち、進んで表現し、ともに学び合う子どもの育成  
～ 「問い」から深まる算数科の授業を通して ～

## 2 主題について

本校では昨年度まで「人とのかかわりを大切にした心豊かな子どもの育成」をめざし、ソーシャルトレーニングの教育プログラム「セカンドステップ」のよさを生かしながら、「かかわりを大切にした効果的な授業づくりの工夫」や「よりよい生き方につながる道徳的実践力の育成」を研究の視点に据えて道徳の指導を核として研究を進めてきた。その結果、何でも話せる温かな学級経営を基盤とした教師と子ども、子ども同士の温かな関係作りが進み、教師の問いかけに真剣に考え、意見を述べたり話し合ったりする子ども達の姿が見られるようになった。

素直でやさしく、周囲とのかかわりを大切にして生活できる子ども達であるというよさがある一方で、次のような課題も挙げられた。

- ・言われたことにはきちんと取り組めるが、能動的に行動する力が弱い。
- ・自分の思いを進んで表現しようとする子が固定化している。
- ・くり返し練習したことは自信を持って発表できるが、普段の授業や感想発表等では張りのない声になってしまう。

このような児童の実態と、少人数のよさを大切にしながらも「自信や誇りを持って堂々と行動できる子どもに育てたい」「夢と目標に向かって生き抜く力をつけていきたい」という願いから、今年度は県の重点教科にもなっている算数科を窓口にして、自分の考えを持ち、意欲的に表現し、友達と学び合う中で考えを高めようとする子どもの育成をめざしていきたいと考え、本主題を設定した。

## 3 研究のねらい

### (1) めざす子ども像

- ◇ 自分の思いや考えを持ち、意欲的に表現しようとする子ども
- ◇ 互いの考えを交流し合い、そのよさに気づいて考えを高めようとする子ども

### (2) 研究の視点

- ① 一人一人に考えを持たせ、表現させるための教師のかかわり方の工夫
  - ・ 子どもが意欲的に考えてみたいと思うような「問い」が生まれる場面設定のあり方
  - ・ 一人一人の思いや考えが表れる表現活動（発表のさせ方・ノートの書き方等）の工夫
- ② 考えを交流し合い、より確かな学びにつなげる手立ての工夫
  - ・ 「一人学び」を「とも学び」へと導く場の設定や学習形態の工夫
  - ・ 考えを深め、「わかる喜び」へと高める発問や指示のあり方
  - ・ 個が生きる学習の場の設定とふり返りの工夫

### (3) 研究の進め方

- ① 算数科の授業研究を中核に据え、事前研・事後研で研究を深めながら、視点の検証を積み上げていく。
- ② 研究の共通理解を図る。
  - ・ 研究の積み上げを図るために、授業者は授業研究や事後研を通して明らかになった

こと、成果と課題等を実践記録にまとめ、次回の研究授業につないでいく。

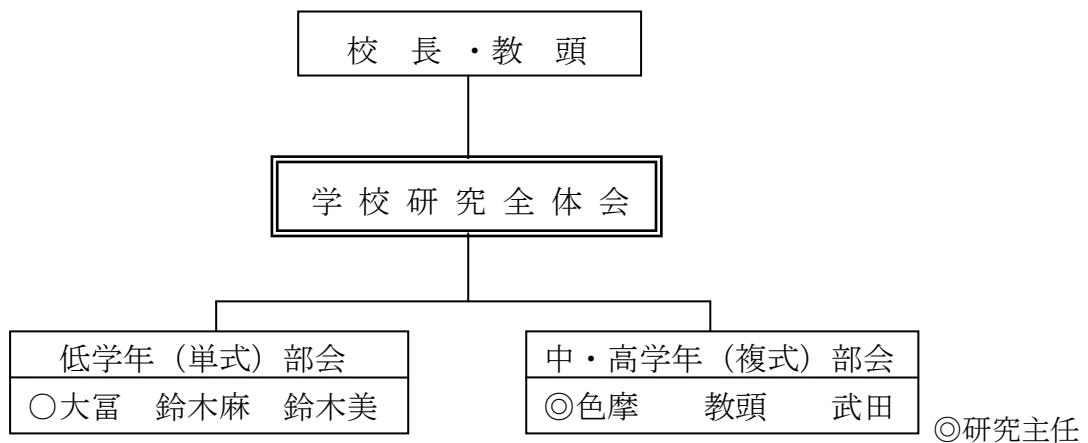
- ・ 研究主任は学校研究便りを発行し、研究の方向性を全職員で確認していく。
- ・ 指導案や実践記録は、年度末に研究集録としてまとめ、次年度に生かす。

③ 校外での研修会に積極的に参加したり外部講師から指導を受けたりして研修を深めることで、よりよい指導のあり方を探っていく。

(4) その他

授業研究日以外にも互いの授業を参観し合う機会を設けることで、研究の日常化を図り、授業力の向上につなげていく。

#### 4 研究組織



#### 5 研究計画

月	日	研究計画	内容・授業研究	その他の研修	講師	指導主事要請
4	4 (木)	学校研究全体会	研究主題・計画検討			
5	1 (水)	校内研修	複式指導研修	○	高井公先生	
	22 (水)	①事前研	3・4年 (色摩)			
6	5 (水)	①授業研究	3・4年 (色摩)			
	14 (金)	②事前研	2年 (大富)			
	28 (金)	②授業研究	2年 (大富)			○
8	21 (水)	校内研修	研修会の報告等	○		
9	18 (水)	③事前研	1年 (鈴木麻)			
10	9 (水)	③授業研究	1年 (鈴木麻)	○		
	30 (水)	④事前研	5・6年 (武田)			
11	13 (水)	④授業研究	5・6年 (武田)			
	20 (水)	校内研修	示範授業 (教頭)			
1	30 (水)	学校研究全体会	成果と課題、研究のまとめについて			
2	12 (水)	学校研究全体会	来年度の方向性の確認			